

新大広報



2013年
卒業記念号

No.186

母校で過ごした時間を、いつまでも大切に・・・

特集1 卒業生・修了生からのメッセージ

一つのおわり 新たな始まり

特集2 退任する教員からのメッセージ

学びへの志はいつまでも

学長からのメッセージ

卒業後のつながり
~CAMPUS INFORMATION~



平成25年の春に新潟大学を卒業される皆さん、
大学院を修了される皆さん、
ならびに新潟大学を退任・退職される方々に、
心からのお祝いを申し上げます。

卒業・大学院修了を祝して

今年も、次代を担う前途有為な卒業生及び大学院修了生を本学から送り出すことができ、我々新潟大学の教職員にとってこの上ない喜びと誇りであります。皆さんのうち多くは、これから新潟大学を離れて実社会に飛び立つと思いますが、大きな希望を持って明日からの新たな一歩を踏み出してほしいと願っています。

改めて申すまでもありませんが、現在の国内外の状況に目を向ければ、解決すべき様々な課題が山積しています。特に東日本大震災からの復興・再生や、低迷する経済状況からの脱却など、日本が国を挙げて取り組むべき問題が立ちふさがっています。そして、ビジネス社会ではもちろんのこと、科学技術・医療・教育

等、幅広い分野において「グローバル化」はますます進展し、それらに伴って社会は多様な要素が複雑に絡み合っているのが現状です。

このような困難な時代にこそ、皆さんには、新潟大学で獲得した広い視野、深い教養と高い専門性、そして「若さ」を強力な武器にして、自信をもって社会で活躍していただきたいと願います。活躍の分野はそれぞれ違っていても、目の前の課題に真正面から取り組み、混迷の時代からの脱却に向けて大いに貢献してください。

皆さんの前途に幸多かれと祈念いたします。

退任・退職を祝して

退任・退職される教職員の皆様には、それぞれのお立場において長年にわたり本学の発展にご尽力いただきました。心からの敬意と感謝の意を表するとともに、お祝いを申し上げます。

本学を含め国立大学をめぐる厳しい状況が続くなか、皆様からいただいた絶大なご協力のお陰で新潟大学は着実に発展しております。本学は今後ともその使命である教育・研究・社会貢献活動の一層の充実に努めて参りますので、皆様におかれましては、これからも本学への変わらぬお力添えとご支援の程を宜しくお願い申し上げます。



新潟大学長

下 條 文 武

GEJYO Fumitake

平成18年4月に、新潟大学の発展と会員相互の親睦を目的として、「全学同窓会」が結成され、本学との懇談会、交流会、講演会など活発な活動が行われています。

皆様には同窓会活動を含めた様々な形で、引き続き新潟大学に対しご支援とご協力をお願いいたします。どうぞ折にふれて新潟大学を訪れ、恩師、先輩、同級生、同僚や教え子達と交流をお持ちいただきたいと願っています。新潟大学は皆さんの心の故郷として、いつも皆さんへの扉を開いています。

一つのおわり 新たな始まり

～かけがえのない4年間と、そしてこれから～

卒業生・修了生のみなさん、新潟大学で過ごした日々を振り返って、大学生活はどんなものだったでしょうか？
一番の思い出は？ 新潟大学のどこが好き？ うれしかったことは？ 逆に大変だったことは？
みなさんの大学生活を思い出してみてください。

Q1 新潟大学の ココが好き!



人文学部 行動科学課程 志村 知子
SHIMURA Tomoko

思いやりのある人が多いところが好きです。就職試験では、たくさんの友人が例え同じ就職先希望でも「一緒に頑張ろう」と積極的に声をかけてくれました。また先生も、授業のことなど親身になって話を聞いてくださる方が多く、たいへん心強かったです。こうした人たちと接する中で、自分もまた相手を思いやる事が出来る人間になろうと思えました。そんな思いにさせてくれる新潟大学を、私は誇りに思います。



理学部 自然環境科学科 池内 柚か愛
IKEUCHI Yukawo

この4年間を振り返って思い出されるのは、大変だったけれど楽しかった様々な実習です。県内各地を回って地形や堆積物などについて学び、佐渡のきれいな海に潜って生物や海藻を採取しました。教室での講義だけでなく身近な自然を題材に、実際に見て、触って、感じる事でより理解が深まりました。これらは、海や山、川など様々な自然に囲まれた新潟大学だからこそできる事であり、恵まれた環境の中で学べた事を嬉しく思います。



医学部 医学科 榎本 貴士
ENOMOTO Takashi

新潟大学には素晴らしい先生方と先輩方がたくさんいらっしゃいます。先生方には医師の心構えを、先輩方には学生生活を楽しく送る方法などを教えていただきました。また医学部では学生と教授の先生方との意見交換の場が設けられており、学生も率直な意見をのべることができます。それらの意見はより良い学生生活のためにしっかりと反映され、決して形ばかりのものではありません。素晴らしい環境に恵まれ、学生生活は非常に充実したものでした。



教育学部 学習社会ネットワーク課程 坂本 雄一
SAKAMOTO Yuichi

教養の授業が非常に魅力でした。特に、プロジェクト実践型の授業における企画・運営の体験は自身の人生における貴重な財産となりました。授業のカリキュラムは勿論、共に受講する学生たちとの交流が非常に有意義なものでした。異なる分野を専攻する学生たちと議論を交わし、自身と異なる視点を発見する。視野の広がりを実感することが出来ました。まさに総合大学ならではの学びの場がそこにあった気がします。

法学部 法学科 高山 真緒
TAKAYAMA Mao

「雪が降っても、新潟大学はあったかい！」海に近く、丘の上に広がる五十嵐キャンパスは、厳しい新潟の冬を堪能できる絶好の場所。冬眠しかけた私が、新潟で4年間過ごせたのは、大学でのホットな出会いのおかげです！熱い志を持つ仲間、先生方の熱心な講義、朝から雪かきに汗を流す職員の方々…寒い地だからこそ、人のぬくもり、当たり前環境のありがたさが身に染みしました。たくさんのあたたかい新潟大学での思い出、みんな大好きです！



医学部 保健学科 検査技術科学専攻 濁川 香織
NIGORIKAWA Kaori

新潟大学で過ごした日々はとても楽しく、あっという間に4年間が過ぎてしまいました。共に過ごした友人たちや先生方がとても明るく、優しい方ばかりだったからではないかと思えます。毎日が本当に楽しく、たくさんの思い出ができました。もちろん辛いことや挫けそうなこともありましたが、友人たちと励まし合い、先生方に支えられながら乗り越えることができました。人々の温かさが新潟大学の大きな魅力であり、大好きな点です。



経済学部 経営学科 狩野 博行
KANO Hiroyuki

『楽しいサークルがたくさんある!』これが私の新潟大学の好きなところです。私は、ソフトテニスと草野球のふたつのサークルに所属しています。サークルに参加していると、そのスポーツを楽しめることはもちろんですが、人脈が大きく広がります。この繋がりは私にとって、大学の難しい講義や就職活動などを乗り越える大きな力となりました。サークル活動は学生生活の中で、重要なポイントであったと感じています。

歯学部 歯学科 荒木田 俊夫
ARAKIDA Toshio

食べ物・お酒がおいしい、夏は海、冬はスキー…と新潟の良いことはたくさんありますが、新潟大学に入学して良かった!!と一番感じたのは、色々な分野での友人が出来たことです。これは総合大学ならではの、同じ歯学部でも単科大学では出来ない事でした。ただ歯学部は6年なので五十嵐の友人が先に卒業してしまうのは少し寂しかったですが…(笑)。寒かったり、雨が多かったり、1年目は地元との気候の違いに驚きもありましたが、なんだかんだあつという間の6年間でした。



工学部 情報工学科

加藤 美里

KATO Misato

私が新潟大学で好きなところは、海が近いところです。もともと内陸の方に住んでいた私にとって、海は車で2時間ほどかけて行くところだったので、海が歩いていける距離にあるというのはちょっとした感動です。夏は友人たちと海へ行って、足を水にひたして遊んだり、夜には花火を楽しんだりして、色々と思い出に残っています。また、学校の窓から見える海も好きです。特に、夕日が海に沈むところはとてもきれいでお気に入りの景色です。



大学院現代社会文化研究科(博士後期課程)

張 文婷

ZHANG Wenting

新潟大学には、学部生から大学院後期課程まで9年間在学しました。思い起こせば、この長い学校生活で、多くの学問や教養を学び、多くの感動を分かち合った仲間に出会い、感謝に満ち溢れています。学年が進むにつれ、専門性が次第に増していく学問の面白さを熱心な先生方が教えてくれました。多くの留学生と交流し、ボランティア活動に参加したり、また、豊かな自然に囲まれた中で、仲間たちと温泉旅行に行ったりと、多くの仲間たちと楽しい日々を共有できたことは一生の財産となりました。



Q1 新潟大学のココが好き!

農学部 農業生産科学科

村上 大樹

MURAKAMI Daiki

大学の敷地が広いところです。学内には遊歩道があり、ちょっとした自然を体験できます。また大学裏側には馬術部が飼っている馬が歩いたり、農学部横の坂道で猫が寝そべっていたりと他の大学では考えられない光景を楽しめます。活動する敷地がたっぷりあるので、サークル活動も非常に盛んです。新潟大学の広大な敷地のおかげで僕もだいぶ自由な活動ができました。この広さは他の大学にはない面白さのひとつだと思います。



大学院自然科学研究科(博士前期課程)

串岡 拓也

KUSHIOKA Takuya

『多様な人たちとの出会い』総合大学という事もあり、サークルや部活動などを通して多くの他学部の人たちと知り合えた事が新潟大学の魅力の1つだと思います。また、大学院への進学は物事の考え方や捉え方などに良い影響を与えてくれたと感じています。ご教授していただいた先生方はもちろんのこと、諸先輩方や友達との出会いは私にとって最大の財産であり、多くの魅力ある人たちと出会う事の出来る点が新潟大学の最大の魅力だと思います。



大学院教育学研究科

呂 丹

LU Dan

新潟大学は総合大学であり、学部や学生が多く、留学生もたくさんいます。最初の留学生活は慣れなくてとても心配している人が多いが、新潟大学では、さまざまな工夫がされています。国際課では、個人的に接することが難しい日本文化を体験することとして、旅行やホームスティなどたくさんのイベントが行われています。また、国際ボランティアサークルで開いてくれた日本語教室で、会話の練習もできてとても楽しい留学生活を送ることができました。

大学院保健学研究科(博士前期課程)

近藤 達也

KONDO Tatsuya

大学を通してカナダスタディーツアーに参加してはじめての海外ホームステイをしたり、大学生になってから新しく車椅子バスケットに挑戦することもできたりと充実したキャンパスライフを送ることができました。保健学科は病院に隣接した位置にあるため臨床に近い場所で学ぶことができ、また、新潟一の繁華街「古町」にも近く、プライベートも充実して過ごせました。

大学院医歯学総合研究科(修士課程)

中本 千尋

NAKAMOTO Chihiro

2年前に故郷沖縄を離れ、脳研究所崎村研に所属しています。私は新潟の「食」が好きです。学内食堂のラーメンは身体に優しく染み渡り、実験の疲れを和らげてくれました。日本酒や栃尾揚げは、同級生や研究室の方々と研究や将来について熱く語る上で欠かせません。医・保健学科の実習生とは、キノコ狩りや鍋パーティーで親睦を深めました。研究に奮闘する日々の中、新潟大学で多くの人々と出会えたことに感謝します。

大学院技術経営研究科

中島 謙一

NAKAJIMA Kenichi

新潟大学は地域を代表する総合大学であり、さまざまな「知」が集結するシンクタンクでもある。そして、そこに通う私達は、それら多様な知に触れ、「学ぶ」ことができる。私はこのことに最も魅力を感じる。たとえば、技術経営研究科(MOT)では、「ものづくり」から「経営」まで幅広い知識に触れ、学び、自分を鍛えることができる。このことは、何物にも代えがたい。ぜひ、多くの方に同様の体験をしてほしい。

決意表明

さあ!! 旅立ちの時です。

これから始まる新しい生活に向けて

決意表明をしてください!



人文学部
人文学科行動科学課程
志村 知子

卒業後は青少年の健全育成に携わる仕事をします。4年間の大学生活で学んだこと、そして、様々な活動を通して交流した人たちとの縁や絆を大切にしながら、誠心誠意をもって仕事に取り組みたいです。



歯学部
歯学科
荒木田 俊夫

卒業してからは歯科医師として、特に総入れ歯を専門に勉強していると思っています。歯を失ってしまった患者さんが、一人でも食べる喜びを取り戻せるように頑張りたいと思います。



工学部
情報工学科
加藤 美里

大学を卒業して、4月からは社会人になります。社会人として責任のある行動を心がけるとともに、両親をはじめとする今までお世話になった方々に恩返しができるよう、精一杯頑張りたいと思います。



農学部
農業生産科学科
村上 大樹

社会人として一人前になれるよう金銭的にも精神的にも自立することを目標にして頑張っていきたいです。そして無事自立することができたらいつか幸せな家庭を築きたいと思います。



教育学部
学習社会
ネットワーク課程
坂本 雄一

金融業界に就職しますが、そこでの経験を活かし、いずれは何らかの形で独立したいです。そのためにもまずは、目の前の仕事をしっかりこなして行こうと思います。



法学部
法学科
高山 真緒

多くの人に支えられて「やっとなさ」ここまでできた私。今後も、新たな人や環境との出会いを楽しみながら、もっと強く大きく成長したい。課題山積みの社会の中、懸命に生きる人の「ため息」を「笑顔」にできるように…。



経済学部
経営学科
狩野 博行

4月から社会人となりますが、私が想像している以上に、働くこと、生きていくことは、大変であると思います。しかし、どんな時も大学まで学んだ知識を振り絞り、時には友人の力を借り、前向きに頑張っていきます。



大学院
教育学研究科
呂丹

責任感を持った社会人になりたいです。いままでは少し間違ってもまだ学生だからと大目に見てくれたけど、これからは、社会人としての責任感を持って、精一杯仕事を頑張っていきたいと思います。



大学院
保健学研究科
(博士前期課程)
近藤 達也

新潟大学で学部、修士と6年間しっかり学んできました。卒業した後は学んできたことを忘れずに医療の現場でフル活用して、多くの患者さんの役に立てるように頑張っていきます。



大学院
現代社会文化研究科
(博士後期課程)
張 文婷

新潟大学で過ごした9年間の素晴らしい思い出を大切に、これからの糧としていきたい!



理学部
自然環境科学科
池内 柚か愛

大学生活で得た知識や経験を糧に、社会人となってからも日々学び続けていきたいです。最後に、熱心な御指導をくださった先生方をはじめ、先輩、友人、家族、支えてくれた全ての方に心から感謝いたします。



医学部
医学科
榎本 貴士

この春から研修医として働くことになります。まだまだわからないことだらけですが、決して妥協することなく日々貪欲に過ごしていきたいです。そして、患者さんの気持ちのわかる医師になりたいです。



医学部
保健学科
検査技術科学専攻
濁川 香織

私は卒業後、病院で臨床検査技師として働きます。医療に携わるといふ非常に責任の重い仕事ではありますが、その分やりがいも大きいと感じています。この新潟大学で学んだことを忘れずに日々精進していきたいです。



大学院
自然科学研究科
(博士前期課程)
串岡 拓也

新潟大学で学んだ事を一寸足りとも無駄にしない事です。大学で行ってきた研究で得た技術や知識だけではなくその過程で得た考え方や取り組み方を生かし、新潟大学の一員としての自覚を忘れずに邁進していきたいです。



大学院
医歯学総合研究科
(修士課程)
中本 千尋

春から、博士課程に進学します。崎村研は遺伝子改変動物による脳機能の解析に力を入れている研究室です。マウス達の温もりに癒されながらこれからも精進したいと思います。



大学院
技術経営研究科
中島 謙一

時が経つのは早いもので、気がつけば修了である。しかし、周囲の応援なくして、成し遂げることはできなかった。支えてくれた方々に感謝したい。そして、本学で学んだことや志を忘れずに、今後も精進していきたい。

Q2 学生生活で大変だったけど 乗り越えたこと

人文学部 地域文化課程 高橋 拓也 TAKAHASHI Takuya

大学では歴史学を学びたい。そう思って入学した新潟大学での4年間でしたが、学年があがるにつれて高い専門性に触れることができた反面、ゼミの報告やレポート、論文に追われる毎日でした。時には朝から晩まで睡眠時間を削って取り組むこともありました。

しかし、同じ研究室の仲間と励まし合い、刺激し合うことで、最後までやりとおすことができました。ともがんばってきた仲間は私にとって大学生活におけるかけがえのない財産です。

教育学部 学習社会ネットワーク課程 澤田 萌 SAWADA Megumu

新潟大学にいた4年間はあっという間に過ぎてしまった。4年間で最も大変だったのが、国際交流の集中講義で中国に訪問し、中国の小学生を対象に授業を行ったことである。授業の内容は日本の文化を伝えるもので、私たちは日本の食文化の代表である、寿司をテーマにした。初めての経験だったので当日までは不安でいっぱいだったが、生徒たちは私たちの授業を通して日本に興味を持ったと言ってくれた。この経験を通して、海外へ出ることの素晴らしさを知ることができた。



法学部 法学科 濱田 佳那子 HAMADA Kanako

アイスホッケー部のマネージャーとして、勝利に貢献するためどんな役割を果たすべきか、ということを考えて日々悪戦苦闘しました。しかし辛いことがあっても遣り遂げられたのは、厳しい練習に耐えリンクで一所懸命戦ってくれたプレイヤー、私を育てて下さった先輩、頼りない私について来てくれた後輩マネージャー、チームを支えて下さった多くの方々のおかげです。最高の仲間にも恵まれて引退することができ、本当に幸せでした。みなさんに心から感謝いたします。

経済学部 経済学科 吉岡 静香 YOSHIOKA Shizuka

大学生活で大変だったことは、就職活動です。それまで急情に過ぎていた毎日が一変し、これからのことや自分自身について考え直すことが多くなりました。自分の将来に不安を感じることもありましたが、ゼミの先生や友人に話を聞いてもらい、考えを深めていきました。また、3年で修了したゼミは4年になっても後輩たちの発表を聞きに、毎週通っていました。就職活動で疲れているときのリフレッシュにもなったと思っています。

理学部 数学科 郝 思嘉 HAO Si Jia

大学入学後、今まで高校で習った数学とは全く内容が異なり、戸惑いました。また、外国人の私にとっては、数学だけでなく、日本語も問題でした。このため、講義の内容をうまく理解できなくて、ほとんどの講義の単位をギリギリの点数で取得しました。そんな私を助けてくれたのがクラスメイトでした。私の分からない所をいつも熱心で、丁寧に分かりやすく説明してくれました。テスト直前にも勉強に付き合ってくれました。みんなのおかげで専門科目は単位を落とさずに取ることが出来ました。今までお世話になった先生方、友人たちに本当に感謝しています。



医学部 医学科 先浜 大 SAKIHAMA Hiroshi

6年間で一番大変だったのは病棟実習です(その分、最も充実した時間でもありましたが)。慣れない白衣を着て、緊張しながら患者さんのお話を伺い、時には先生に見守っていただきながら手技を学びました。

毎日が復習と次の日の準備をする日々で、苦しいと思う時もありましたが、同じ班の仲間がいたから乗りきることができました。

雪の日の朝は特に苦戦しましたが、いつの間にか雪道の歩き方にも、雪かきにも慣れました。



医学部 保健学科 看護学専攻 斎藤 真帆 SAITO Maho

4年次前期は病院実習、地域実習、卒業研究、採用試験の勉強、採用試験に追われ、日々の忙しさにやるべきことが疎かになり、そんな自分に焦ってばかりいた。しかしそのような私を支えてくれたのは、自分の気持ちを理解しいつも親身になって相談に乗って下さったゼミの教授、同じ目標に向かい励まし合った仲間であった。この大学での貴重な出会いによって、大学生活では充実した学びを得、また長年の夢を叶えることができた。



歯学部 歯学科 國分 博子 KOKUBU Hiroko

歯学部での一番の思い出は、やはり臨床実習です。学生が指導医のもと患者さんの治療をさせていただく貴重な機会ですが、教科書通りにはいかない実際の臨床の難しさを目の当たりにし、自分の無力さを感じました。そんな中、診療が長引いても「丁寧に診てくれてありがとう」と言ってくださる患者さんや、夜遅くまで指導して下さる先生方、そして症例について一緒に考えてアドバイスをくれる同級生のおかげで、なんとか実習を終えることができたのだと思います。つらい事もたくさんありましたが、まわりの方々の優しさを感じながら、充実した楽しい学生生活を送ることができました。



Q2 学生生活で大変だったけど乗り越えたこと



工学部 福祉人間工学科 網島 駿介
TSUNASHIMA Syunsuke

福祉人間工学科では工学の基礎に加え、生体系・福祉支援に関する多様な科目にも触れる機会があった。中には興味を向けられない科目もあった。興味の向かない科目と出会った時、科目に面白さを見出せない私はどこかで手を抜いてしまっているのだろうと反省し、まずは基本に立ち回り手を抜かずに講義を聴くことにした。すると、今までになかった余裕が生まれ、余裕の分視野が広がり、それまで気付かなかった“面白さ”を見つけることができた。

農学部 応用生物化学科 岩佐 悦道
IWASA Yoshiyuki

学生生活で苦労したことは勉強とアルバイトの両立です。特に試験が集中する時期にアルバイトをしながらテスト勉強をするのは大変でした。アルバイトで思うように勉強時間が取れないこともありました。そんな時は寝る時間を削って勉強したり、友達と一緒に朝まで勉強したりしたこともありましたが、話に夢中になってしまうこともよくありましたが…そんなこともありましたが、ほとんど単位を落とすことなく学生生活を終えられそうです。



大学院教育学研究科 山本 詩織
YAMAMOTO Shiori

私は修士論文の執筆とその他の時間の時間配分に苦労しました。大学院では授業も少なく、主に修士論文の執筆がメインの学習になります。学部生時代よりも問題意識が鮮明な分、学習時間もより必要でした。しかし金銭的な問題からアルバイトは必須で、アルバイトをすればするだけ学習時間は減る一方。趣味など余暇の時間も必要です。隙間時間を捻出して、その時間の使い方を慎重に考え行動するよう心掛けたため、乗り越えることができました。

大学院保健学研究科(博士前期課程) 本間 陽奈
HOMMA Haruna

「挑戦」の日々だった大学院生活。失敗の連続…私にとって試練の2年間だったように思います。辛い時期、背中を押してくれた両親、温かく見守ってくれた恩師、体を気遣ってくれた祖父母。たくさんの優しさを心の支えに乗り越えることができました。すべてが良い結果ではありませんでしたが、たくさん悩んで、それでも前を向いて挑戦できたこと。今振り返ると自分の将来にしっかり繋がっていると思います。「挑戦できてよかった」心からそう思います。

大学院自然科学研究科(博士前期課程) 戸田 貴大
TODA Takahiro

「学生生活で大変だったこと」と聞かれて真っ先に思い浮かぶのは教員採用試験です。ストレート合格が困難であると聞いていたため、勉強に数多くの時間を費やしました。24年の人生でこれほど一生懸命に勉強したことはないと思います。その甲斐もあってか試験に合格し、未来の扉を開くことができました。焦りを感じ、苦しくて辛い時も多々ありましたが、そんな時に自分を突き動かしてくれた友人・家族の激励に感謝しています。



大学院医学総合研究科(博士課程) 北村 香織
KITAMURA Kaori

仕事と研究の両立が難しく、最後の年は研究に時間がかけられるように仕事を調整しました。また、大学院に進む動機となった臨床で得た課題について学ぶうちに、その課題や手がけている研究について悩み、時には周囲からの助言や批判を受けることもありました。その過程で常に大切にしていたことは、どんな意見もまずはありのままに受け止め、それから自分の中に吸収していくことでした。それらが今の自分を形作っていると感じます。



大学院技術経営研究科 細野 泰介
HOSONO Taisuke

私は入学時に経営や経済の基礎知識は全くなく、周囲のMOT生のレベル・講義についていくことが大変でした。しかし、なんとか追いつこうと、わからないなりに学び続けました。「学ぶ」ことを継続していくうちに、自分なりに学習方法や資料の作成方法、思考を構築していくプロセスを理解することが出来ました。MOTで自分自身に変化を起こすことの過程を体験できたことは今後の人生の大きな収穫になりました。

決意 表明



人文学部
地域文化課程

高橋 拓也

4月からはそれぞれの場所で新しい生活を始めることとなります。仲間に支えられて頑張ってきたこの4年間を糧として、新しい環境でも自分の力を精いっぱい発揮していきたいと思っています。



教育学部
学習社会
ネットワーク課程

澤田 萌

私は地域に密着した仕事がしたいと思い、地域経済を身近で応援できる信用金庫に就職した。これからは社会人として、新潟大学で学んだたくさんのことを活かし、地域社会に貢献できるよう日々努力していきたい。



工学部
福祉人間工学科

綱島 駿介

卒業後は大学院へ進学する。時には興味の向かないことにも出会うだろう。その時もまずは手を抜かず事にあたり、その中からやりがいを見つけていきたい。大学生活での経験を、今後の人生を充実させるヒントにしたい。



農学部
応用生物化学科

岩佐 悦道

春からは社会人となり、今までとは違う厳しい部分も多々あると思いますが、すべて経験だと思って頑張っていこうと思います。仕事も頑張りがつ、遊び心を忘れずにこれからも楽しんでいきたいです。



大学院
教育学研究科

山本 詩織

大学院博士課程に進学予定なので、この修士課程の経験を活かして学習時間と余暇などの時間配分を考えつつ博士論文の執筆やその他の活動をし、日々の生活をより一層充実したものにしたいです。



法学部
法学科

濱田 佳那子

春から大学院へ進学し、災害からの復興や様々な社会問題に取り組める人材になるため公共政策を学びます。自分に何が出来るのかということを常に考えながら積極的に学び、将来、社会の第一線で活躍したいと思っています。



経済学部
経済学科

吉岡 静香

公務員らしくない公務員になりたいと思っています。個性的で、新しい企画や今までにないことに挑戦する人間になりたいです。仕事だけでなく、今までやってきた自分の趣味もそのまま続けていきたいと思っています。



理学部
数学科

郝 思嘉

私は数学だけでなく、外国文化もとても好きです。これから、自立して、仕事をしながら、お金をこつこつ貯め、休みを利用して、英会話教室に通うつもりです。ある程度英語が出来るようになったら、世界旅行に行きます！



大学院
保健学研究科
(博士前期課程)

本間 陽奈

「千里の道も一歩から」と言いますが、私自身もこれから社会に向けての第一歩を踏み出します。その一歩一歩がいつか人の役に立てる道になることを夢見て、着実に踏み始めていきたいです。



大学院
自然科学研究科
(博士前期課程)

戸田 貴大

念願であった高校化学の教師として新しい一歩を踏み出せることとなりました。未来を担う子どもたちを導いていく立場として、私自身、向上心と教育への情熱を忘れることなく驕らず謙虚に成長していきたいと思っています。



大学院
医歯学総合研究科
(博士課程)

北村 香織

大学院での学びを礎に、ひきつづき研究に励み、長く続くやりがいのある仕事をしていきたいと思っています。最後に、お世話になったすべての方々にこの場を借りて深く御礼申し上げます。



医学部
医学科

先浜 大

研修医はきっと学生実習と比べものにならないくらい忙しく、責任も伴いますが、子どもにも親御さんにも信頼してもらえる小児科医を目指したいと思っています。いつか医療人として新潟に恩返しがしたいです。



医学部 保健学科
看護学専攻

斎藤 真帆

市の保健師として、住民の方々が地域の中で生涯健康でいきいきと生活できるよう取り組みたい。また住民の方の身近な存在として、住民の方々と共に健康の保持増進のために活動していく保健師になりたい。



歯学部
歯学科

國分 博子

多くの方々に支えられながら大学生活を続けることができ、無事卒業を迎えられることを心より感謝いたします。皆様のご厚意に報いることのできる歯科医師を目指して、これからも努力していきたいと思っています。



大学院
技術経営研究科

細野 泰介

社会人と大学院生との両立を支えて頂いた職場や家族・友人・諸先生方に感謝し、特に入学を迷っていた私の背中を押してくれた家族に対しては恩返しのつもりで大切な時間を共に過ごしていきたいです。



素晴らしき青春の日々

私の大学での4年間は本当に素晴らしいものでした。学業やサークル活動に全力で取り組むことができ、素晴らしい仲間たちとも出会えました。大学生活で得たものは一生の財産です。一度しかない人生の中でこれだけ自分のやりたいことに打ち込める時間は学生時代しかありません。後輩の皆さん、この素晴らしい時間の中で、やりたいと思うことは悔いのないよう全力で取り組んでください!きっとみなさんにとっても大学生活は素晴らしい人生の財産となることでしょう!

4年間あっという間でした。まだ1年生の頃にサークルの説明会に行って、先輩と色々話したこと、初めての県外の友達、他学部の友達ができ楽しかったことは、今でも思い出されます。単位の取得はもちろん大事ですが(笑)、大学時代で出会った人々は今後の人生でも関わり、自分の人生を良くしてくれる人たちです。その人たちのおかげで今の自分があります。後輩へ一言ということで、私は、「今の仲間をずっと大事にしてください。」と贈ります。

大学生の自由度は無限大だ。その自由の中でどう自分を高めて行くかが重要である。色々な経験を積みれば良い。バイトやサークル、ギャブルだっていいかもしれない。中でも私は旅を勧める。長い休暇は社会人では難しいが、今ならば大丈夫。仲間とわいわい行くのも良いし、一人でフラフラ行くのも楽しい。作家の永倉万治にこんな言葉がある。「何かをやって時間を損するということは絶対にない。貧乏旅をすれば、大学を二つ出たようなものだ。」



Q3 卒業するにあたり、後輩へ一言



後輩の皆さんには色々な事に興味を持って、色々な事に挑戦して下さい。大学は自分を大きく成長させてくれる場所です。新潟大学という素晴らしい環境でたくさん学び、多くのことを吸収しましょう。そのことが皆さんをきっと大きく成長させてくれるはずです。大学の4年間という時間は長いようでとても短く、あっという間に過ぎてしまいます。夢を持って、大学生活を大いに楽しみ、盛り上げてほしいです。

4年間の学生生活を振り返ると、日々の講義に加えて、留学生との交流やアルバイト、留学など、たくさんの方に挑戦し続けた日々でした。ときに大変なこともありましたが、ひとつひとつの経験が私に多くの変化をもたらしたものであり、大きな財産であると感じます。皆さんにも、失敗を恐れずに何にでも挑戦してほしいと思います。そして、その先には皆さんの人生を変えてくれるような、素敵な物事との出会いが待っているはずです。



大学生活は、あっという間に過ぎます。目標が何かある人は、それに向かって頑張ってほしいと思います。1日1日を漠然とではなく積極的に過ごせば、無限の可能性を現実に変えるほどの時間になると思います。6年間終えて思うことは、「学生時代、これは頑張った!」と言えるものがあるといいということです。ですから、今目標が特に無い人は、部活動、サークル、何でもいいので何かに参加してみてください。人とのつながり、自分の価値観などを含め、世界がパッと開けると思います。

私はバスケット部に所属し、アルバイトも2つ掛け持ちして充実した大学生活を過ごしました。一方で、大学の勉強はその分野に専門的に特化したカリキュラムが組まれているため、原理を追求する学習法が求められます。私は普段の講義から断片的暗記ではなく、理解型勉強の癖をつけるように努めました。4年次では、実習や研究、国家試験などで高度な医療知識が求められるので日々の講義を大切に、メリハリをつけた大学生活を送ってください。

総合大学である新潟大学には多くの学部があります。それゆえ社会のように志や考えが違う人が多いです。それを恐れず、自ら多くの人と積極的に関わる姿勢がとても大切になります。そこから新たな発見があるでしょう。学部内でもそれは同じですが、私の所属する口腔生命福祉学科は個性的な人も協調性を重んじる人も様々いて、その根本には「口腔から人々の健康生活を支えたい」という共通の想いがありました。皆さんも多くの人や意見に触れることで大学生活を有意義に過ごしてください。

Q3 卒業するにあたり、 後輩へ一言

工学部 化学システム工学科

小野 顕広

ONO Akihiro

大学生生活の4年間は本当にあっという間で、入学式がついこの間のようです。大学生生活は地元を離れての一人暮らし、サークル活動やアルバイト、専門的な勉強や実験など初めての経験が多く、毎日がとても充実した日々でした。

現在大学生の方は、学生時代の貴重な時間を十分に楽しんでください。これから大学生を送る方は、期待と不安の両方を感じていると思いますが、学生生活が期待以上のものになるよう願っています。



大学院教育学研究科

市川 綾香

ICHIKAWA Ayaka

大学院での研究は、学部生時代の勉強内容よりもさらに深いところまで突き詰めていきます。指導教員のもとで、先行研究を読み、仮説を立て、それを検証するための調査を行い、出てきた結果を考察してといったプロセスで、自分の研究を2年間で論文として仕上げます。指導教員がつくとっても、ただ受け身で指導されるわけではないので、日々自分自身の研究に対し問題意識をもち、自分なりの意見を言うようにしておくと思います。



農学部 生産環境科学科

小澤 悠紀

OZAWA Yuki

まだまだ大学生として過ごす時間があるならぜひ視野が広がる経験をしてみてください。私は気になった本を手当たり次第に読んだり、鹿児島までヒッチハイクで旅をしたり、興味が湧いたことはすぐ行動に起こしてきました。どの行動がどんな結果になるかはわからないものですが、確実に言えるのは多くのことに挑戦してきたことで私の狭い世界は広がりました。自分の中に眠っている多くの可能性を信じて、あらゆることに挑戦してみてください。



大学院自然科学研究科(博士前期課程)

郷野 達也

GONO Tatsuya

後輩の皆さんには「とりあえずやってみる」を心がけてもらいたいです。以前、国際会議にエントリーするか迷う事がありました。国際会議はおろか、学会発表も未経験でしたが、「とりあえずやってみる」というモットーの下、エントリーしました。発表が慣れないこともあり、恥ずかしい思いもしましたが、結果として賞を頂くことができました。失敗を笑ってもらえるのは学生のうちだけです。みなさんも様々な事に挑戦しましょう。



大学院実務法学研究科

門田 和幸

MONDEN Kazuyuki

継続は力なりという言葉がありますが、ただ同じような毎日を繰り返すのと、少しでも何かを吸収しようと意識して継続するのでは、最終的に大きな差が生まれると思います。大学院での学習は、日々、課題や予習復習など、ともすれば同じような毎日の繰り返しになりがちですが、何か1つでも新しいことを吸収しようと意識を持つことが自分を大きく成長させてくれると思います。自分の目標のために少しの努力をしてみるのもいいのではないかと思います。



大学院保健学研究科(博士前期課程)

栗田 絵里加

AWATA Erika

私の大学生生活で一番大切なものは友人でした。勉強が辛い時に支えてくれた友達。悩み事を自分のことのように聞いてくれた友達。楽しい時間を一緒に過ごしてくれた友達。大学でできた友達は一生の付き合いになると思います。でも社会に出たら友達と一緒に過ごす時間が少なくなってしまいます。だからみなさん、学生のうちに今そばにいる大切な友達とたくさんの時間を過ごして下さい。きっとそれが一生の思い出となるはずですよ！



大学院現代社会文化研究科(博士前期課程)

親泊 康太

OYADOMARI Kota

私はみなさんに偉そうなことがいえるほど、決して模範的な学生ではありませんでしたが、私の経験を踏まえみなさんに一言だけアドバイスできるとするのなら、一つだけでいいので一所懸命になれるものを見つけられるといいのではないかと思います。何でもいいです、大学の勉強、資格取得、部活・サークル活動、自分がやっていて楽しい、向いていると少しでも思えるものなら何でもいいのでそれに対して一所懸命になってみてはどうでしょうか。

大学院医歯学総合研究科(博士後期課程)

米澤 大輔

YONEZAWA Daisuke

私の大学院生活の5年間は、本当に様々なことを学ぶ機会となりました。また、まだまだ分からないことだらけで、これからも様々なことを学んでいきたいと思える5年間でもありました。大学生活だけでは学べないことや、分からなかったことが大学院では学ぶことができます。自分の興味のある分野で研究を行うことができる自由な所が最大の魅力です。これを読んでくれている学生の方には、強く大学院に進学することをお勧めします。

大学院技術経営研究科

渡邊 高志

WATANABE Takashi

かえりみて、MOTは「自分イノベーション」にもってこの学修機会であったという実感と共に、主体的な学びに対するデザインと自己管理能力が足りなかったと猛省もしています。学びの中で自分を見失いかけた時は、自分の過去のペーパーやプレゼンアーカイブを見直してみてください。自分自身に誠実に向き合い、成長を感じ、学びへの主体性を取り戻し高めることができそうです。より実りある学びを得られることを祈っています。



決意 表明



人文学部
情報文化課程

石崎 友也

新潟大学で学んだことを生かし、この厳しい社会の中を力強く生きていきたいと思います。そして現代の社会で強い輝きを放ち、「あの人は新潟大学で学んだから立派なんだ」と思われるような人間になれるように頑張ります。



教育学部
学習社会
ネットワーク課程

嶋岡 花

社会人になるにあたり少し不安もありますが、新大生であったことを誇りに頑張っていきたいです。日々「学ぶ」姿勢を忘れずに、会社だけでなく、社会にも貢献できるように仕事に取り組んでいきます。



工学部
化学システム工学科

小野 顕広

4月から社会人として働くにあたり、今まで以上に何事にも責任を負うことになると思います。4年間の学生生活で学んだことを活かし、責任ある行動を心がけ、社会に貢献できる人間になりたいと思います。



農学部
生産環境科学科

小澤 悠紀

家族や先生、友人をはじめ、多くの方々に支えられてきたおかげで新潟大学を卒業することができました。私を支えてくれた方々へ恩返しができるよう、新潟大学で学んだ経験を糧にこれからの人生を歩んでいきます。



大学院
教育学研究科

市川 綾香

4月から社会人になります。学生時代とは異なる、新たな分野へのチャレンジになりますが、「輝いている社会人」になりたいです。仕事でも私生活でも、未知のことに物怖じせず、ポジティブシンキングを心がけて充実させます！



法学部
法学科

佐藤 博亮

春から社会人になるにあたって、環境が変わることに不安もあります。しかし、学生生活で培った経験を活かして、これからも多くのことに挑戦し続け、国際的に活躍できる人間になりたいと思います。



経済学部
経営学科

波瀲 敏幸

私は現在税理士の資格を取るために学習をしています。就職先も決まり、今後は働きながら学習をしていき、資格を取り、夢を叶えたいと思っています。大学で学んだことを社会に還元できるように尽力していきます。



理学部
物理学科

諏訪部 宙

私は4月から新潟大学大学院へと進学する。大学生活で得た知識や経験を活かし、かつ更に伸ばしていく。二年後には社会人になっているはずだが、新潟大学の名に恥じないよう頑張っていくつもりである。



大学院
保健学研究科
(博士前期課程)

粟田 絵里加

学部と大学院を合わせると6年間という長い学生生活でした。大学院まで進学させてくれた両親に感謝します。社会に出たら大変なことがたくさんあると思いますが、これまでの経験を糧にして立派な社会人になります。



大学院
現代社会文化研究科
(博士前期課程)

親泊 康太

私は現在税理士資格取得を目標に勉強中ですが、卒業した暁には2年以内に税理士試験の残り税法科目1科目を合格して、これまで精神的にも経済的にも支えてくれた両親に対して早く親孝行したいです。



大学院
自然科学研究科
(博士前期課程)

郷野 達也

新潟大学出身のエンジニアとして恥ずかしくないトラックを世の中に送り出していきたいです。人の命に関わる物を作る仕事なので、安心・安全を常に意識したエンジニアを目指して邁進したいと思います。



医学部
医学科

高橋 茉那

医師を志した初心にもう一度立ち返り、とにかく必死で勉強し、経験すること全てを吸収していきたい。そして一日も早く研修医として仕事ができるようになりたい。将来、自分の目指す医師像に向かって、毎日を大切にしながら努力していきたい。



医学部
保健学科
放射線技術科学専攻

本永 みなみ

診療放射線技師の職業は将来の夢であり、第一希望の病院に就職することができました。1人暮らしもスタートするので不安ですが、引き続き、常に学ぶ情熱を持って資格や研究にも積極的に挑戦していきたいと思っています。



歯学部
口腔生命福祉学科

大場 美雪

大学で得た知識や経験を基にして臆せずに自信を持ち、周りの先輩方のアドバイスを聞きながら、日進月歩の絶えず変化する医療福祉へ貢献していこうと思います。



大学院
医歯学総合研究科
(博士後期課程)

米澤 大輔

大学院で研究し、様々なことを学ぶことが出来ました。修了を機に終わりとするのではなく、これからの人生に生かしていきながら、今後も様々なことを学んでいきたいと思っています。



大学院
実務法学研究科

門田 和幸

大学院への進学を志望した動機からすれば、院を修了しただけではスタートラインにも立てていないと思います。まずは、一歩目を踏み出せるように、そして、歩き続けられるように日々努力を重ねていきたいと思っています。



大学院
技術経営研究科

渡邊 高志

「新潟に杉と男は育たない」という言い伝えには、もう納得しません。「予測困難な時代」というあきらめをかなぐり捨て、MOTで培った力、本質を捉え「言い切る」力を支えとして、「高志」に生きていきたいと思っています。

特集2
退任する
教員からの
メッセージ

学びへの志はいつまでも

～たくさんの感謝と希望を残して～



FUKUDA Kazuo

退任に際しての雑感

人文社会・教育科学系(人文学部) 教授

私は1981年に旧教養部の専任講師として本学に赴任しました。その後、人文学部人間学講座に移籍し、言語学の担当となりました。「言語学概説」や「言語と人間」などの講義では、学生諸君の受講態度の良さや意見・質問の鋭さに何度も感心しました。ゼミでは演習の授業や恒例の「言語学読書合宿」、そしてコンパなどで勉強と遊びの両方を堪能しました。また、多くの留学生や大学院生のことも忘れられま

せん。授業を通じて私自身の勉強も深まりました。まさに、教えることは学ぶことだと実感しています。

日が暮れると、広大な五十嵐キャンパスのあちこちに小さな灯がともります。静穏でロマンチックな大学の夕暮れです。いつまでもこの良き環境が保持され、新潟大学が魅力ある知の共同体としてさらに発展していくことを心から願ってやみません。

福田 一雄



OKAMURA Mitunobu

定年退職のご挨拶 -感謝の気持ちで一杯です-

人文社会・教育科学系(教育学部) 教授

私が新潟大学に奉職させて頂きましたのは1975(昭和50)年、教育学部旧長岡分校でした。以来38年、教育学部の3地区統合により現在地に移ってからも32年になります。夢中にやっているうちに、「アッ」と言う間の事であったように思えます。それだけ、良い学生・院生諸君に恵まれていたのでしょう。とくに、統合後は3・4年生の演習や野外実習、卒論・修論指導も担当するようになり、学生・院生の方も必死ですが、指導する私の方も必死でした。文献比較

演習などはその水準も高く、今でも「これほど勉強を重ねる所、全国でも他に有るのだろうか」とさえ思います。学生諸君からは常にエネルギーを頂き続けました。また、各地に出向して実施し小論文に纏めた夏・秋の野外実習などは、地元の方々のご厚意・美しい山河の景観と共に、終生忘れることはないでしょう。本当に良い学生・院生を持たせて頂いて幸せでした。有難うございました。新潟大学の益々のご発展をお祈りしています。

岡村 光展



TAKIZAWA Kahoru

新潟大学を退任するにあたって

人文社会・教育科学系(教育学部) 教授

昭和54年4月に教育学部高田分校に赴任した時には、生まれ育った東京とは別世界の豊かな自然と心あたたかい人々に感動した覚えがあります。その後、教育学部統合により新潟へ移転し、大学院教育学研究科設置、教育学部改組、独立行政法人化などを経験してきました。この間、保健体育科教育法、運動方法学、体操、ダンス等の授業を担当し学生と共に過ご

してきました。また、「心と体の統合したリズムカルな動きづくり」をテーマとして学内外、国外の多くの方とリズム体操の研究・実践をすることができました。

34年間、教職員・学生・地域の方々を支えられて充実した日々を過ごすことができました。この場をおかりして感謝申し上げますとともに、新潟大学のますますの発展をお祈りいたします。

滝澤 かほる



MINAMI Shinji

新潟大学を退任するにあたって

人文社会・教育科学系(法学部) 教授

新潟大学には8年間在籍し、法学部・現社研・朱鷺自然再生学研究センターの兼務教員として勤務、自治体政策・環境法・行政法など幅広く担当し、それなりの業績や地域貢献もでき、充実した日々であった。よい同僚・学生に恵まれ、感謝している。私の座右の銘はと聞かれた時には、「人間万事塞翁が馬」と答えることにしている。中国の「淮南子」に出てくる話

で、人生における禍幸は予測できないことを意味している。うまくいかなくても落ち込む必要はないし、順調だからといっていい気になってはいけない。人生でチャンスを掴めるかどうかは日頃の努力に裏付けられた人間としての力にかかっている。学生の皆さんが自分らしい人生を生きられるよう願ってやまない。

南 眞二



TANI Takao

退任にあたって

人文社会・教育科学系(大学院現代社会文化研究科) 教授

1992年(平成4)年4月に、中部地方の私立大学から法学部に政治学原論担当として赴任し、早いもので20年が経過しました。この間、教養部の改組、法政コミュニケーション学科と夜間主コースの新設と廃止、現代社会文化研究科および博士後期課程の設置、実務法学研究科の新設、大学法人化と、わたしの所属関係だけでも、目まぐるしい変化を経験し

ました。大学の生き残りがアジェンダとなる今日、戦後民主化のなかで発達してきた大学のなかで育った者としては、おそらく最後の人間となったのだと実感しています。わたしとしては、こうした変化が、新しい有意義な大学への道につながっていることを望むばかりです。

谷 喬夫



NISHIKI Hitoshi

大学は港のようなもの

人文社会・教育科学系(大学院現代社会文化研究科)教授

錦 仁

山形に生まれ、仙台で学生時代を送り、市内の聖和学園短大に勤め、秋田大学へ移り、平成8年に新潟大学にやってきた。山を越えれば故郷の山形だ。時計と反対回りに東北を一周したわけだ。これが私の歩みであった。

よって私は、東北の大地を踏みしめるつもりで、それをおのれ思想の基盤として研究をし、教育をしてきた。新潟にきてからの単著は6冊、共編著も7冊を超える。すべて教室で語ったことを書いた。昨年未

出した『宣教使 堀秀成一だれも書かなかった明治』は東北を旅した人を追いかけた。学生さんへ最後のプレゼント。『中世詩歌の本質と連関』は全国の若い研究者24人と私の論文。心の中で退職記念の論文集とした。

さよなら、港の街の新潟大学。楽しかった。船は港に入り、大海へ出てゆく。教室で出会った学生は一人ひとり、どんな旅をしてゆくのだろうか。



NAMAZUGOSHI Itsuhiro

激動の時代と大学-退官に当たって

人文社会・教育科学系(大学院実務法学研究科)教授

鯨越 溢弘

私が着任以来、法学部は、社会の急激な変化と学生のニーズに応えるために、学部の改組や新たな教育プログラムの開発に積極的に取り組んできました。私自身、現代社会文化研究科(博士課程)や法科大学院の設置等、教育組織の大幅な見直しと改組に関わり、また、国際化・情報化等社会・経済のグローバル化に対応する人材の養成として実施した様々な教育プログラムは、全国でもユニークな取り組みとして注目を集めました。

29年間を振り返ってみると、教育カリキュラムの改善等、周囲へ多大の迷惑を掛けながら、暴走してきたとの感慨を禁じ得ません。少子化が進み、18歳人口が急激に減少していくこれからの時代に、大学が生き延びていくためには、特色ある大学経営を行う必要があるものと思います。

新潟大学が、新たな時代の要請に応じて、更に発展することを祈念して筆を擱きます。



AJIOKA Shinsai

新潟大学を退任するにあたり

人文社会・教育科学系(大学院実務法学研究科)教授

味岡 申幸

新潟大学法科大学院が平成16年4月1日に開設されて以来今日まで、実務家教員として、法曹倫理、現代司法論、臨床法学等を講義してきました。私が誇りに思っているのは、新大ローを卒業した法曹の多くが弁護士等として新潟に残り、様々な分野で活躍し、高い評価を得ていることです。現在、地方大学は軒並み司法試験合格等で苦戦を強いられ、合格しても必要な司法基盤整備がなされなまま弁護士のみが大量増員されてきたことから就職困難や重い経済的負担など様々なひずみが生じています。今、法曹が魅力ある職業として存続しえるのか、という重

大な岐路にさしかかっているのです。

院生の皆さんには、司法試験に合格し、志ある立派な法曹となり、社会の様々な課題に向き合い、取り組んでいただきたいと願っています。私は、3月に新大ローを定年退職しますが、4月からは新潟県弁護士会会長として県民の法的ニーズに応え、また人権擁護のために努力する所存です。

最後になりましたが、皆様方のこれまでのご支援ご厚情に心から感謝申し上げます。新潟大学のますますのご発展をお祈り申し上げます。



AKAI Junji

新潟大学の学生の皆さんへ

自然科学系(理学部)教授

赤井 純治

38年におよぶ新潟大学での生活。多くの先輩・同僚教員に出会い、また学生さんからも元気・力をもらいました。専門は鉱物学で、電子顕微鏡鉱物学の私なりの大系を新潟大学でつくりあげられたかなと思っています。電顕観察では、大小を問わなければ発見の連続で楽しい研究生活でした。専門の教育では、鉱物学の基礎と面白さを多くの人に伝えたかなと思いますし、教養科目の「平和を考える」のシリーズでは、のべ3000人に核・原発、学問と平和、大学と

平和課題等を真剣に考えてもらったと思います。私の講義では五感を大事にと工夫もしたつもりでした。大学にとって自由ほど大事なものはありません。独創的な研究も基礎力と自由な発想、それと豊かな感性、理性によって育まれます。自由闊達な議論、討論こそ、大学の命と信じます。今の学生の皆さんが主体的に、若者らしい清新な感性をもって、深く広く学んでいってほしいと願います。未来は皆さんにかかっています。

退任する
教員からの
メッセージ

学びへの志はいつまでも ~たくさんの感謝と希望を残して~



ISOGAI Eiichi

新潟大学での思い出

自然科学系(理学部) 教授

本学大学院修了後、民間会社で2年間システム開発の仕事に従事し、企業の生き残りを掛けた競争の厳しさを痛感しました。その後、新潟大学理学部に就職することになり37年間を経て退職する日を迎えました。在職中は学生および教職員の皆さまには大変お世話になり、心から感謝申し上げます。

思い出のいくつかを列挙します。若い頃、4年生ゼミの終了後よく居酒屋等で学生との交流を深めたこ

磯貝 英一

と。モントリオールにあるマギル大学で(当時の)文部省在外研究員として研究を行い、帰国直前に阪神・淡路大震災の知らせを受けたこと。外国人留学生を含めて学位を授与したこと。表千家茶道部の顧問として作法等を学んだこと。

今後、学生と教員との活気溢れる交流と信頼関係を通して、より良い教育が行われることを期待します。



IWASE Teruo

「人生って結構楽しいものかも」

自然科学系(工学部) 教授

送ることの多かった私も送られる立場になりました。創設直後の建築学科への赴任で初めて新潟を訪れた日に見た市内の名残雪を思い出しますが、そのシーンは昨日のようでもあります。多くの方に出会い活動をした大学での30余年は長かったのか短かったのか、やりたいことができたのかできなかったのか、答えはイエスでありノーで正直判りません。これから

の若い諸君に申し述べることへの信念はありませんが、日々与えられる課題には自身の力を惜しまず注いで生きて欲しいと伝えたい。「人生って結構楽しいものよ」か、「そんなに甘くはないよ」の繰り返しは、過ごした後に辿り着く結論ですが、努力を重ねた人に多くの恵みが与えられるという印象は強く持っているのです。

岩瀬 昭雄



YOSHIHARA Hisao

新潟大学を退任するにあたり

自然科学系(理学部) 教授

私が本学へ転勤して来たのは昭和54年10月でした。それからを振り返ると反省すべき点が多く出てきますが、自分なりに教育研究ができたのではないかと思います。教育に関しては、卒業生の皆さんが高校教員や研究者、あるいは企業などで活躍していて頼もしく嬉しい限りです。研究に関しては代数多様体の幾何と代数に関する研究を行ってきました。特に、自身が

吉原 久夫

始めた「ガロワ点」関係の研究が国内外の協力者を得て発展していることは有り難いことです。教育者冥利、研究者冥利に尽きるといえる年月でした。休日には角田山登山をよくしました。身心の健康に役立っていたのではないかと思います。ここに皆さまに深く感謝いたすと同時に、今後ますます新潟大学が発展されることを祈念いたします。



TSUBOKAWA Norio

新潟大学を退任するにあたり

自然科学系(工学部) 教授

昭和47年3月に新潟大学大学院を修了後、そのまま4月から新潟大学助手に採用されて以来、41年間お世話になった新潟大学を去ることになりました。この間、多くの優秀な学生と学内外の共同研究者に恵まれ、教育と研究に充実した日々を送ることができました。

修士課程で、カーボンブラックの表面改質というテーマをもらったときは、不思議な「黒い粉」との付き

合いが、かくも長くなるとは夢にも思っていませんでした。しかしながら、カーボンナノチューブやフラーレンが発見されたことに伴い、私たちが積み重ねてきたナノカーボンに関する研究成果が色々な方面で応用して戴けるようになったことは何よりの喜びです。

これまでの皆様のご厚情に感謝するとともに、新潟大学の益々のご発展をお祈り致します。

坪川 紀夫



UDA Tadayoshi

去りゆくにあたって、学生へのメッセージ

自然科学系(理学部) 講師

2012年末選挙で自民党が政権に返り咲きました。安倍内閣が再度誕生し、前回の雪辱を晴らす勢いで様々な政策を矢継ぎ早に行っています。おかげで経済界では実体の伴わない期待感だけで株価が値上がりし、小バブルが起りつつあります。

しかし、グローバル化一途の世界に反して、日本は少子高齢化の進展もあって、右肩上りの経済成長は

卯田 強

望む楽もなく、企業の生き残りも、学生の就職も一層厳しくなるでしょう。従来の方法も、既成の概念も通用しません。今こそ新しきを創造するという気概が必要で、そのためにたくさんの知恵を見に付けることが学生時代に求められています。



GOTO Terutaka

新潟大学を退任するにあたり、新潟大学の学生へむけて

自然科学系(大学院自然科学研究科) 教授

このたび、新潟大学を退任するにあたり、新大広報において皆様にご挨拶を申し上げます。私はこれまで物理学科に所属し、低温における超音波計測を用いて、希土類化合物の4f電子の四極子、カゴ状化合物のラットリング、鉄ヒ素超伝導体のマルチバンド効果などの基礎研究に加えて、シリコンウェーハの原子空孔の評価など半導体技術への応用を進めて来ました。私のこれまでの研究生活の経験の中から、優秀で

独創的な人材こそが基礎研究と産業技術を発展させる原動力になり、グローバルな競走のなかで日本が発展する基盤となることを痛感しています。その中心になるのは今まさに大学で学んでいる皆さん自身です。大学で深く学んだ学問こそが、厳しい社会で生き抜く糧であり力であることを肝に銘じ、勉学と研究に励んでいただくことをお願いします。

後藤 輝孝



ABO Toru

退任の時を迎えて

医歯学系(大学院医歯学総合研究科(医))教授

今、退任の時を迎えて、22年前の教授就任の時のことも思い出しています。新潟大学で、教授として研究や教育にたずさわられる喜びにあふれていました。夢と希望の出発は私の仕事の原動力となり、研究に集中する毎日でした。幸い、教室のスタッフの協力と若い大学院生が多数加わり次々にデータが出て英文論文にまとめる、という流れが出来ました。免疫を司るリンパ球には、生物が上陸する以前からあった

自己応答性の胸腺外分化T細胞と自己抗体産生のB-1細胞があり、これが加齢の免疫、細胞内寄生マラリア感染の免疫、自己免疫疾患(膠原病)の免疫に関与することを明らかにしました。逆に、これらの状態では進化レベルの高い通常のT細胞、B細胞の免疫系は抑制されています。いずれ、この基本的研究成果が人々のお役に立つと思っています。永い間、ありがとうございました。

安保 徹



SAITO Chikara

退任するにあたり、新潟大学の学生へむけて

医歯学系(大学院医歯学総合研究科(歯))教授

平成13年11月に本学赴任しましたが、退任直前までめまぐるしい変化がありました。平成14年の歯学部附属病院と医学部附属病院の統合、平成16年の大学法人化、平成18年の病棟完成に伴う歯科/口腔外科病棟・手術室の移転、平成21年の中央診療棟完成に伴う手術室の再移転などがありました。平成24年には新外来棟開院に伴う歯科外来の全面移転があり、さらには本年1月に歯学部大型改修に伴う研究室の一時引越もありましたが、学生諸君は素晴らしい環境のもとで勉学に励むことが出来る環境が

整ってきました。在職中に中越地震、中越沖地震、および東北地方太平洋沖地震があり心を痛めることもしばしばありましたが、被災地の方々の強い精神力と忍耐力で一丸となって復興へ努力する姿勢を目の当たりにし、むしろ私共のほうが励まされました。学生諸君は新潟県民性である「忍耐力」を学んでいただき本学の発展の一翼を担ってください。10年余という短い期間でしたが本当に有難うございました。学生諸君の御発展を心より御祈り申し上げます。

齊藤 力



NAITO Makoto

退任にあたって

医歯学系(大学院医歯学総合研究科(医))教授

私は1992年に赴任してから20年間、病理学の教育と研究に没頭してきました。教室員や大学院生と一緒にマクロファージの研究を進め、留学生も研究に加わってくれました。その中にミャンマーからの留学生がいました。帰国した彼女をパートナーとして、私は2000年からミャンマーの医療支援を始めました。現地の医療状況は想像を絶するものでしたが、医師に寄せる患者の絶対的信頼に医療の原点を見る思いでした。13年間、20回の訪問を重ねるうち、保健省と協定を締結し、現地でインフルエンザの調査を始めました。共同研究は軌道にのり、軍政下で先

進諸国が入り込めないミャンマーにオンリーワンの立場を確保し、成果を世界に発信できるようになりました。ところが、ミャンマーは2010年秋の総選挙後、民主化へ向けて急激に動き出しました。先進国がどっと入り込んで、熾烈な競争が始まります。ミャンマーが開かれた国になるのを見ることができたのは幸いでした。しかし、これがミャンマー国民の生活向上に結びつくには時間がかかるものと思われます。新潟大学とミャンマーの絆がこれからも続くよう学生の皆さんの理解と協力をお願いします。

内藤 眞



KUROSE Akihiro

新潟大学を退任するにあたり、新潟大学の学生へむけて

企画戦略本部東京事務所 教授

企業で一貫して知的財産権を担当した後、新潟大学へ転身して5年7か月が経過しました。この間、知的財産権・国際連携・産学官連携などの種々の業務を通じて大学と共に歩み、企業とは異なるアカデミックな環境の中で勤務することができたことはたいへん貴重な経験でした。

また国際センターでは「異文化を考える」とのテーマで、自己の海外勤務体験などを踏まえて毎年講義を行いました。これには多くの諸君が熱心に耳を傾け、共感を得て海外に目を向けてくれたことは大き

な喜びです。
諸君の人生は今、交響曲の第一楽章“学生”です。次はいよいよ感動的な第二楽章“社会”が始まります。心を開いて奏でれば、妙なる調べは必ず相手の心の琴線に快く響きます。卒業後はどの道に進まれようとも、四周の変化を柔軟に受け入れ、しなやかに対応できる高い能力を備え、かつ人と円滑なコミュニケーションを図れば人生の勝ち組となります。きっと。
諸君の長い人生での大いなる健闘に期待します。

黒瀬 昭博

退任する
教員からの
メッセージ

学びへの志はいつまでも ~たくさんの感謝と希望を残して~

卒業生と在學生をつなぐ

新潟大学キャリアセンター

CANシステム



社会の先輩としてのアドバイスを学生にお聞かせ下さい!

『CANシステム』は、在學生が卒業生に就職活動の相談ができ、また卒業生の方からも在學生へ社会の現状や、働くことのやりがいなど、生の声を伝えられるシステムです。先輩からのアドバイスは、厳しい雇用環境の中で不安な気持ちで就職活動に取り組む後輩たちには、心強い支援になります。

※システムを経由するので、お互いの個人情報(氏名・メールアドレス等)を公開せずに安心してご利用いただけます。

卒業生の皆さんには、本システムの趣旨をご理解いただき、ぜひご登録をお願いします!

ご不明な点はキャリアセンターまでお問い合わせ下さい

新潟大学キャリアセンター
〒950-2181 新潟市西区五十嵐2の町8050番地
TEL:025-262-6087
E-mail:niigata.cc-obog@adm.niigata-u.ac.jp
URL:http://www.career-center.niigata-u.ac.jp/

ご登録方法

登録はとてもカンタン!
個人情報は公開されません。



<http://www.career-center.niigata-u.ac.jp/jobnetwork/>

STEP 1 協力依頼・利用規約同意画面

新規登録から利用規約同意画面へ。

STEP 2 入力画面

フォームに必要事項を入力。
公開可能な項目は、任意で選択可能。
※登録可能なメールアドレスはPCのみになります。
※学生からの質問受け付けの可否も任意で選べます。



STEP 3 確認画面

入力情報を確認後、「送信する」ボタンをクリック。
※登録情報を変更または削除する場合はメニュー画面からそれぞれ行えます。
※ご登録後は、ログイン画面からメールアドレスとパスワードを入力してログインしていただけます。

STEP 4 登録完了

ご指定のメールアドレスに確認メールが届き、登録完了。
※キャリアセンターにてご登録内容を確認させていただきますので、登録完了・公開までに数日かかる場合があります。

質問・相談メールをお待ちください。

ご登録後の流れ

学生からの質問・相談メールに、システムを通じて返答します。

活用具体例

- 会社・仕事・職種についての具体的な質問
- キャリア形成に関する質問やアドバイス



卒業生と大学をつなぐ

卒業後も大学図書館を利用できます!

新潟大学附属図書館は、地域社会に開かれた大学図書館として、卒業生・一般市民の皆さんにもご利用いただけます!

利用できるサービス

- 1 館内に配架されている図書や雑誌の閲覧
- 2 中央図書館・医歯学図書館共通の図書館利用カードの発行
14日以内。貸出冊数は、全学同窓会会員で新潟大学カードに入会している方は10冊、未入会の方は5冊など、利用者により異なります。
- 3 図書の貸出
- 4 館内資料の複写
- 5 資料の検索、調査方法の相談 など

※その他詳細については、下記問合せ先でご確認ください。

中央図書館は、平成25年4月にリニューアルオープンします!

増築棟1Fは、「インフォメーション・ラウンジ」として、在學生・卒業生・地域住民・教職員の皆さんが気軽に立ち寄り、交流できる場所となります。また、講演会なども行われる「ライブラリーホール」が新設され、明るく開放的な空間となります。

ぜひ、卒業後も大学図書館にお気軽にお立ち寄りください!

【新潟大学附属図書館HP】<http://www.lib.niigata-u.ac.jp/>

【五十嵐地区】新潟大学附属図書館 中央図書館 TEL:025-262-6221 E-mail:etsu@lib.niigata-u.ac.jp

【旭町地区】新潟大学附属図書館旭町分館 医歯学図書館 TEL:025-227-0694 E-mail:b-serv@lib.niigata-u.ac.jp

新潟大学 卒業/修了生向けメールサービス

卒業/修了後も大学のメールを利用できます!

卒業/修了すると在學時に利用していたメールアドレス(在籍番号@mail.cc.niigata-u.ac.jp)が使えなくなります。

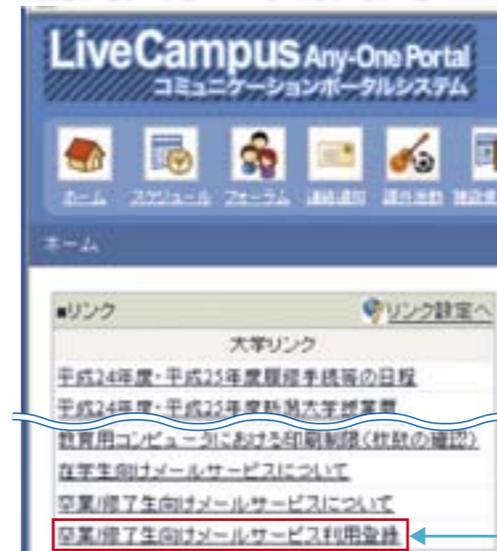
「卒業/修了生用メールアドレス」を取得すると卒業/修了してもずっと使えます。

【卒業/修了生用アドレス】在籍番号@alumni.niigata-u.ac.jp
↑アカウントの一部が変わります

利用・登録方法

卒業/修了が決まったら、学務情報システムポータル大学のリンクから**卒業/修了生向けメールサービス利用登録**へアクセス
→登録後、新しいアドレスが発行されます。

※3月中旬から3月末までに在學生用アドレスに届いたメールは、卒業/修了生用アドレスに転送されます。





新潟大学全学同窓会



全学同窓会 多和田孝雄会長インタビュー

伝統ある各学部同窓会の枠を超えて連携・協力を図るため、平成18年に全学同窓会は設立されました。平成24年に第三代の会長に就任された多和田孝雄さんに全学同窓会の活動について伺いました。

全学同窓会の理念や目標について

「新潟大学の発展と社会への貢献に資するとともに、会員相互の交流と連携及び親睦を図る」という目標があります。加えて、全学同窓会が会員サービスを充実しつつ、新潟大学をサポートする最強の応援団となるために、私は「会員一人ひとりと心の繋がる同窓会づくり」、「会員にメリットのある同窓会づくり」、「新潟大学を支援できる同窓会づくり」の3つをスローガンに掲げております。

全学同窓会の活動や事業について

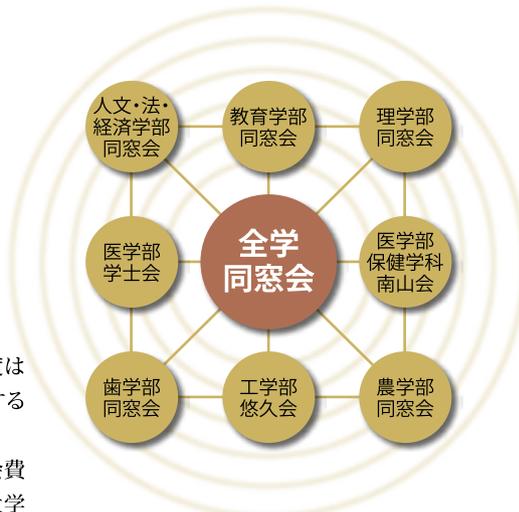
学生さんに直接関係のある事業としては、「雪華支援事業」が挙げられます。部・サークル活動を含む全学的な学生活動の支援を

行っています。これとは別に、平成24年度は運動部等が利用する筋トレ設備を更新するための寄付をしました。

また、卒業生の希望者には入会費・年会費無料のゴールドクレジットカード「新潟大学カード」も発行しています。

学生、卒業生に一言お願いいたします。

母校が全国有数の誇らしい大学となるためには、教職員や学生諸君の活躍もさることながら、卒業生の社会での活躍も大事です。



また、卒業生一人ひとりからの小さな支援が全学同窓会を通じて大きな力となり、母校を支えることにつながります。

ぜひ卒業後は、全国にいる13万人の卒業生の仲間になって下さい。

【新潟大学全学同窓会HP】<http://www.niigata-u.ac.jp/dousoukai/index.html>

【新潟大学全学同窓会事務局】TEL:025-262-7891 (受付時間 平日10:00~15:00)

FAX:025-262-7892 E-mail:dosojimu@adm.niigata-u.ac.jp

「新潟大学基金」ぜひご協力ください

「新潟大学基金」は、皆様からのご寄附を基に、学生の修学支援や、国際交流活動等、魅力ある大学作りのために活用しています。具体的には、以下のような事業に支援を行っています。

● 「輝け未来!! 新潟大学入学応援奨学金」への支援

成績優秀であるが経済的な理由により、進学が困難な高校生を対象として、入学時に必要な学費の一部を給付する制度。

● 運動部への最新のウェイトトレーニング機器導入への支援

これらの他にも各種事業に対して支援を行っています。これらの事業を継続的に行うためにも皆様方のご理解とご協力をお願いいたします。なお、ご寄附をいただいた場合、税法上の優遇措置が受けられる他、特典もご用意しております。詳しくは基金ホームページをご覧ください。

【新潟大学基金HP】<http://www.niigata-u.ac.jp/kikin/index.html>

【新潟大学基金事務局】TEL:025-262-5651 (受付時間 平日9:00~17:00)

FAX:025-262-7272 E-mail:kikinjimu@adm.niigata-u.ac.jp

For Next Generation
広く社会の知恵を高め、社会に貢献できる
オンラインワンの大学づくりのために



下僚学長と奨学金受給者との懇談会

懇談会での奨学金受給者からのコメント

「高校の担任の先生からこの制度を聞き、応募しました。入学できた今、感謝の気持ちと共に、臨床検査技師という自分の目標に向けて日々学んでいきたいと、改めて思っています。」

【新大広報 Back Number】http://www.niigata-u.ac.jp/profile1/100_pamph/shindai_kouhou.html

新大広報のバックナンバーは上記のURLから閲覧することができます。また、学務部学生支援課で受け取ることもできます。

2013年卒業記念号 [No.186]

新潟大学
ホームページ

<http://www.niigata-u.ac.jp/>

編集・発行 / 「新大広報」学生編集スタッフ 新潟大学学務部・新潟大学広報室 印刷 / ㈱第一印刷所

